

第2次安城市食料・農業・交流基本計画（案）パブリックコメント実施結果

実施期間：平成29年1月6日（金）から平成29年2月4日（土）まで

意見提出数：3件（提出者2名）

No.	該当箇所	意見内容（※）	市の考え方	計画への反映
1	【P.48】 第3章 3 交流に関する施策 （1）交流の推進 イ 農業者と消費者等が交流する機会の確保	<p>新規に「援農ボランティアシステム事業」を立案提示します。</p> <p>参考として藤沢市が実施している要領を添付します。安城市の様な立地条件には、大変適しているシステムで、資金的にもあまり必要ないと思っています。</p>	<p>本市では現在、「アグリライフ支援センター」において、野菜作り講座等を開催していますが、今後は講座を修了した人材の活躍の場となるよう、講座や農業体験の拡充を図るとともに、「農」に係る人材の相互交流について検討してまいります。</p> <p>いただいたご意見につきまして、援農ボランティアの趣旨は理解しますが、地元農家の労力不足を補うためには、ボランティアではなく、雇用契約による労働力の確保が有効と考えておりますので、ご理解の程よろしく申し上げます。</p>	<p>ご提案いただきました件につきましては、左記の「市の考え方」に基づき、計画の内容は従前のままとします。</p>
2	【P.17】 第3章 1 食料に関する施策 （1）食料の安全性の確保等 ア 食料の安全性の確保 ② 農産物の安全性の確認 【P.39】 第3章 2 農業に関する施策 （4）環境保全型農業の推進 ア 環境保全型農業の推進	<p>日本のデンマークと呼ばれる農業の盛んな安城市ですが 農薬使用が気になります。</p> <p>大分県臼杵市は、無化学合成農薬・無化学肥料の野菜作りを推進しており、2010年に、草木8割、豚糞2割を主原料とした堆肥を製造する「臼杵市土づくりセンター」を開設。</p> <p>慣行農業から有機農業に転換する生産者や、あたらしく農業をはじめめる市民が現れているそうです。</p> <p>そしてその安全な有機野菜を学校給食に導入しています。安城市でもそのような方向性へゆく試みをぜひ考えていただきたいです。</p>	<p>本市においても、農薬等の削減に関する啓発や、せん定枝を破碎・発酵処理した堆肥を地元農家等に配布しているほか、市内畜産農家が生産する有機質肥料をPRし、農産物生産者への利用促進を図っております。</p> <p>また、農薬を使用する場合でも、あいち中央農業協同組合等と連携しながら、出荷される農産物については農薬使用基準の遵守や残留農薬の抽出検査等により安全性の確認を促進しております。</p> <p>有機農業は、農産物生産者の負担が大きく、広まっていないのが現状です。</p> <p>安全・安心な農産物の供給のため、第2次となる本計画においても引き続き、農薬の削減や有機質肥料のPR等に取り組んでいきたいと考えております。</p>	<p>ご提案いただきました件につきましては、左記の「市の考え方」に基づき、計画の内容は従前のままとします。</p>
3	【P.19】 第3章 1 食料に関する施策 （2）地産地消の推進 ア 地元農産物の普及促進 ④ 学校給食における地元農産物の利用促進	<p>学校給食における地元農産物の利用促進ですが40パーセントといわず、さらにパーセンテージがあがることを希望します。</p> <p>センター方式の為、加工品に頼らざるを得ない現状と給食センターの職員から伺いました。</p> <p>その中には遺伝子組み換え不分別の大豆製品も使用されています。安城は大豆もたくさん作っているのに、子供たちの為、なんとかして地元産で加工品をつくり給食に使える仕組みを作れないものでしょうか。</p> <p>どうぞご検討いただけますようよろしく申し上げます。</p>	<p>学校給食の食材につきまして、安定的にまとまった量を調達する必要がありますが、地元農産物だけでは限界があり、使用割合を現状の40%以上に増やすことは難しい状況です。しかし、可能な限り地元農産物の利用に取り組んでいきたいと考えております。</p> <p>また、学校給食で使用する加工品の原材料を、安城産などの地元農産物のみで調達することは大変難しいと思われれます。ただし、今後も引き続き、安城産を使った、より安全な加工品の調達を推奨してまいります。</p>	<p>ご提案いただきました件につきましては、左記の「市の考え方」に基づき、計画の内容は従前のままとします。</p>

※意見内容は、基本的に原文のままです。